

# 天野小学校の概要

## 1. 校区の概況

標高約450m、四季折々のどかな田園風景が広がる天野盆地は、県の『風景百選』にも選ばれている。平成元年（1998年）には、環境庁（現環境省）から『ふるさと生きものの里』に認定され、初夏の夜空には源氏ボタルの乱舞が見られる豊かな自然に恵まれた地域である。

平成16年（2005年）に、高野参詣町石道とともに世界遺産登録された天野の里に鎮座する丹生都比売神社は、約1700年前に創建されたと伝えられ丹生都比売大神・高野御子大神をはじめ四神を祀る古社で、全国の丹生神社の総本社である。弘法大師は、この神から社地を借受けて1200年前に高野山を開山したことから、真言密教の守り神としても知られている。以後、高野参詣の表街道として栄え、高野山ゆかりのロマンあふれる伝説と史跡が里山に点在し、古よりの文化が薫る歴史のある地域でもある。

学校は、へき地指定1級地で、校舎は天野盆地の中央に位置している。校区は、戸数114世帯、人口341人（H18.5.1現在）で、純農村地域では場整備が進んでいる。近年、専業農家（米作・野菜・花卉栽培）が減少し、兼業農家が多くなってきている。

地域には、育成会・老人会・天良会・天野里づくりの会などの充実した組織が活発に活動しており、地域活性化のエネルギーが感じられる。同時に、学校に対しても地域をあげて協力的で、育友会の奉仕作業等の活動には夫婦で参加してくれたり、総合的な学習の時間や体験学習の時間には、『ふるさと先生』（地域の指導者・人材バンク・講師等）として積極的に協力してくれたりする。また、子ども達も地域の伝統行事には必ず参加するなど、地域ぐるみで子育てにあたるなど、「潜在的な教育力」は大変高く、教育環境は整っている。

## 2. 児童数・学級編成と児童の実態

### （1）本年度（平成19年度）の学年別児童数と学級編成

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
人数	0	3	1	4	2	2	12
学級	2年単式		3・4年複式		5・6年複式		3学級

## (2) 児童の実態

ほとんどの児童は3世代同居の家庭に育ち、純真・素朴で、学校ではいつも元気な挨拶の声が響き合っている。子ども達は、明るく素直で伸び伸びと育っており、休憩時間や放課後には高学年の児童が低学年の子どもの面倒を見ながら、学年や男女の隔てなく兄弟のように仲良く遊ぶ姿が見られる。また、自分の仕事は責任を持ってやり遂げることが出来たり、全校一斉での活動では皆で協力したりすることも出来る。

反面、幼少時から固定化された人間関係の中で育ってきたためか、様々な場面において受動的な面が見られ、お互いに啓発し合ったり切磋琢磨したりする機会が少ないように思われる。また、食事内容や睡眠時間・整理整頓などの基本的な生活習慣に課題が見られる児童もいる。

## 3. 課 題

平成18年度は、学校全体として『**基本的生活習慣の確立**』『**基礎学力の充実**』『**基礎体力の向上**』の3点に重点を置き取り組みを進め、一定の成果をあげることが出来た。しかしながら、これらの取り組みをさらに充実・発展させることが本校児童にとって必要であると考え、本年度も継続してこの3点を中心課題と位置づけ取り組みを推進していく。

### (1) 『**基本的生活習慣の確立**』

食育も含めた「早寝・早起き・朝ごはん」運動の継続的な取り組み、忘れ物・整理整頓、言葉遣い等について、家庭との連携を密にしながら指導にあたる。

### (2) 『**基礎学力の充実**』

「学習意欲の向上」・「表現力の向上」を目指し、読書指導や作文指導、百マス計算等を取り入れ〔読み・書き・計算〕の充実を図る。また、学習意欲を喚起する指導方法や教材の工夫改善を図る。

### (3) 『**基礎体力の向上**』

体育科授業の充実はもとより、始業前や休憩時間、放課後の外遊びの奨励や、学校施設の開放を図り、様々な身体的活動を促進させる。